

*** 記事 ***

例会記録

平成十七年九月例会・日本医史学会神奈川地方会第二十七回学術大会合同講演会

平成十七年九月十七日

神奈川県救急医療中央情報センター

一、ウルソデキシコール酸 (UDCA) の発見

佐分利保雄

一、矯正給食から窺える庶民日常食の史的観察

日野 英子

一、明治期の精神病院に於ける看護婦養成について

— 府立巣鴨病院の実態から

澤田 恵子

一、黒死病はペストか—黒死病の謎

滝上 正

例会抄録

ウルソデキシコール酸 (UDCA) の発見

佐分利 保雄

ドイツの Ohmannsfehn は一九〇二(明治三五年)、クマの胆汁から一種の胆汁酸を発見した。一九二七(昭和二年)、正田政人がクマの胆汁を精製し結晶状の胆汁酸を得、構造決定して、ウルソデオキシコール酸と命名し、世界で最も古い生化学雑誌 *Z. Physiol. Chem.* に掲載された。ウルソはクマの学名でたとえば、ツキノワグマは *Ursus hibetanus* と呼ばれる。UDCA はヒトの一次胆汁酸であるケノデオキシコール酸の立体異性体で $3\alpha, 7\beta$ ジヒドロオキシ 5β -コラン・二四酸である。UDCA は毒性が少なく強い利胆作用がある。近年ケノデオキシコール酸による胆石溶解作用が明らかにされたが、その立体異性体であるUDCAにも同様な効果が認められ、広く臨床的に用いられている。

胆汁酸の研究は二〇世紀の初めごろから、ドイツで始まった。なかでも、Henrich Otto Wieland は一九二七年胆汁酸の研究でノーベル化学賞を受賞した。Wieland はミュンヘン、ベルリン、シュツットガルトで学び、フライブルグ、ミュンヘン大学の教授を務めた。彼の下には日本からも幾人かが留学した。京都大学生化学の清水多栄(とみひで)もその一人